

コラム 気象影響防御技術の研究開発に関する連携協定を締結

国立研究開発法人寒地土木研究所は、平成28年1月15日に気象影響防御技術の研究開発に関する連携協定を締結しました。この協定は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)の次世代航空イノベーションハブを連携協力の拠点とする「気象影響防御技術コンソーシアム(略称:WEATHER-EYE コンソーシアム)の発足に合意するとともに、本コンソーシアムの活動及び本コンソーシアムの下での参加機関の活動実施のために必要な事項を定めたものです。

航空機関連業界では今後多くの運航需要が見込まれており、特殊気象(雪氷・雷・火山灰等の航空機に影響を与える気象)に対する運航安全性及び運航効率向上の研究開発(気象影響防御技術)が注目されています。気象影響防御技術の実証を目指した研究開発を実施するにあたり、航空工学の枠を超えた異分野協働を含むオールジャパン体制で推進するため、18の機関が本協定に参画しています。参加機関は、本コンソーシアムの運営・維持に関し、ビジョン・研究戦略等の策定・共有、ニーズ・シーズ等の情報共有活動、フォーラムの開催による本コンソーシアムの活動内容の発信及び成果普及に資するための活動、参加機関及び本協定外部の機関が情報交流活動を行うためのオープンな研究会の設置、等を行うとされています。また、各参加機関は、他の参加機関との間で合意のもとに気象影響防御技術の研究開発の促進に関して、共同による研究開発、個別情報交流活動、個人人材交流活動、施設・設備の相互利用、情報・データの共有、等を行います。

本協定への参加は、寒地交通チームがこれまで実施してきた路面雪氷のセンシングやすべり抵抗評価に関する研究及び技術開発の有用性が航空分野でも認められたものであり、研究成果が異分野へも普及するとともに、新たな機関との連携体制が構築し易くなることにより、異分野での新たな研究の発展にも資するものと期待されます。

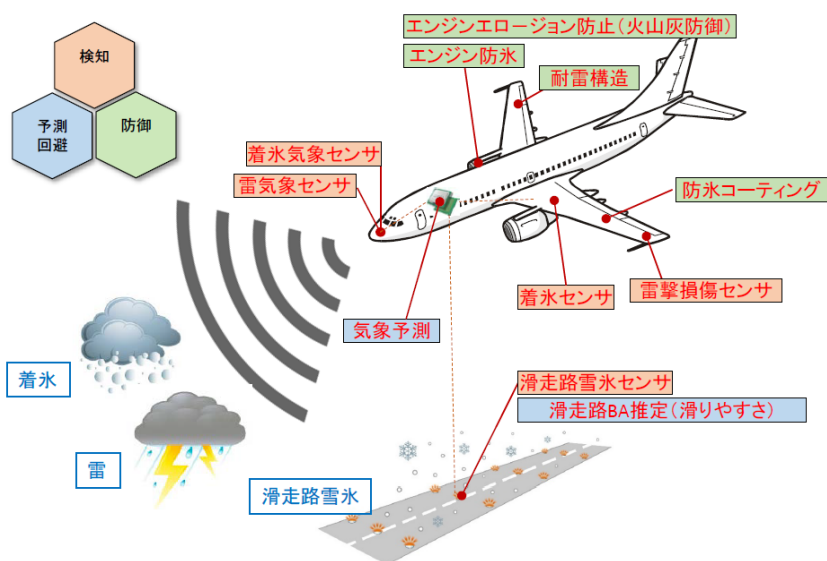


図-1 特殊気象を検知・回避・防御する気象影響防御技術